

# 多世代交流による足利のまちづくり

表紙デザインについて

活動は人の輪です。足利でのさまざまな活動、つまり人の輪の大きさはそれぞれ違って、目的、特徴、関係性もバラバラです。そんな人の輪ひとつひとつが本冊子では紹介されています。さまざまな星が繋がって星座を描くように、人の輪が多様に繋がって、新しい活動が芽生えることを願って、このデザインとしました。



# はじめに

牛山 泉

このたび「多世代交流による足利のまちづくり」企画・編集委員会の方々が、コロナ禍にあつて活動もままならない中、勉強会や活動の成果を冊子にまとめていただきました。

足利大学附属高校建築科の生徒の皆さんの、2021年春の山火事で焼失した「両崖山」の展望台の復興プロジェクトをはじめとして、「里山の持続的利用に向けた実業高校の「新たな公」参画に向けての実証実験」、足利清風高校と足利工業高校のみならずによる「あしもり隊」、また「歴史と文化のまち足利」や「独自の庭園文化の評価」、さらには「まちの価値を再発見したい」、そして最後に「足利の歴史文化を将来の世代に引き継ぐプロジェクト」等々、文字通り世代を超え、多様な立場からの熱意が伝わる作品になりました。

私自身も、足利工業大学から足利大学にいたる五十年もの長い間、この地にお世話になりましたが、とくに、学長、そして理事長を拝命して以来、地元の学生はもろろんのこと、留学生や足利以外の地域からの新入生に対して、講義の前に「足利再発見」

という時間を取り、画像を使って、国宝鏡阿寺、足利学校、日本で二番目に古い足利工業高校、CNNでも紹介された足利フラワーパーク、多くの文人が逗留した巖華園、国際的にも評価されているココファーム・ワイナリー、葛飾北斎の浮世絵に出てくる足利行道山の架け橋、国宝イコンのある足利ハリストス教会、大谷石で作られた足利東教会、縁結びで知られる織姫神社、赤レンガ工場群のトチセン（栃木整染）、国際基準JCIを取得した足利赤十字病院、などを紹介してきましたが、大岩山多聞院最勝寺などは昨年初めて訪問させていただきました。

さらに書家の「相田みつを」さんも忘れることはできませんし、よく知られた「一生勉強 一生青春」、「しあわせはいつも自分のところがさめる」、「新しい門出をするものには新しい道がひらける」、など新入生にぴったりの言葉も紹介してきました。このように足利は歴史と文化の宝庫なのです。

私自身は長野県で生まれ、東京の大学に学び、足利に奉職しましたが、長野県出身

者は、老若男女だれでも長野県の歴史と地理と文化を盛り込んだ県歌「信濃の国」を歌うことができ、愛郷心をくすぐられますが、同じように「上毛かるた」で育った群馬県人は、折に触れ郷里の文物を思い返し郷土愛が燃え上がるはずです。さらに、この五十年の間に、私は国際学会や、政府の委員として会議や調査で五十か国以上に出かけていますが、先進国はもちろんのこと、JICA国際協力機構に仕事で出かけた開発途上国においても、その機会にできるだけ現地の人々と交わり、文化博物館や技術博物館などにも足を運ぶようにしてきました。

この冊子は多世代の方々の協力でできたものですが、「傍目八目」といわれるように、足利育ちでない「よそ者」の方が、足利の良さや改善すべき点もよくわかるのではないかと思うことがあります。

特に、東京有楽町の東京フォーラムに「相田みつを美術館」があり、本学とも連携させていただいておりますが、相田さんが足利のお生まれであることを知る人が少ないのは大変残念なことです。金沢に行ったときに相田みつを記念館があり驚いたのです

が、高齢化社会になり高齢者も、若い人たちも心の支えになる言葉が欲しい時に、足利に来て、相田みつをさんの言葉に出会って心に安らぎを得て欲しいと心より願っており、そのためにも是非とも相田みつを記念館を設置して欲しいと思います。

足利に生まれたり、足利に縁のある方々が、この歴史ある街に生を享けてよかった、この町の良き伝統に触れることができてよかったと、このまち足利とのご縁を大切にしてください「足利愛」を持ち続けていただきたい、これを受け継ぎ、さらに発展させていただきたいと心より願っております。この冊子はその具体的な活動の記録であり、引き続きこの活動が継続されますよう心より祈念しております。

令和4年3月25日

学校法人足利大学 理事長 牛山 泉

01	<b>はじめに</b>	牛山 泉 氏（足利大学前理事長）
03	<b>目次</b>	
04	<b>両崖山復興プロジェクト</b>	足利大学附属高等学校
08	<b>— コラム —</b>	牛山 泉 氏×足利大学附属高等学校の生徒のみなさん
12	<b>里山の持続的利用に向けた実業高校の「新たな公」参画に向けての実証実験—邑楽郡千代田町と足利市名草地区を事例として</b>	足利大学附属高等学校
16	<b>あしもり隊</b>	足利清風高等学校 & 足利工業高等学校
20	<b>歴史と文化のまち足利</b>	木村寛 氏（元 足利市教育次長）
22	<b>独自の庭園文化を評価へつなげる</b>	外丸実 氏（足利庭園文化研究会）
24	<b>足利の文化・産業のシンクタンクとして</b>	清水弘一 氏（足利リビルドの会 会長）
28	<b>まちの価値を再発見したい</b>	冨田和則 氏（足利の建築家、足利の近代化遺産を考える会事務局）
32	<b>足利の歴史文化を将来の世代に引き継ぐプロジェクト</b>	沼尻了俊 氏（NPO 法人 足利歴史まちづくりの会、大岩山多聞院最勝寺執事）
36	<b>はじまりの句読点</b>	渡邊美樹 氏（足利大学教授）

**書き手**

白井清文  
(足利大学附属高等学校)



山火後に焼失してしまった見晴台



完成後に記念写真を撮影したところ

# 足利大学附属高等学校 両崖山復興プロジェクト

## 活動の内容とそのきっかけ

令和3年2月21日に両崖山において山火事が発生し、23日間に渡って燃え広がり、およそ167ヘクタールが焼失しました。多くの人に愛されていた山頂付近にある休憩所も、焼け落ちてしまいました。足利市内の会社の登山サークルのメンバーが山火事の2日後には、再建に向けて復興プロジェクトを立ち上げ、動き出しました。活動は予算を集めることからスタートしました。そのためにクラウドファンディングで休憩所の再建を訴えて、寄付を呼びかけました。すると、1カ月で、山を愛する全国の人たちから、60万円の寄付が集まりました。その活動の中心となっていた、ユニバースプロダクツ様から昨年6月初旬、本校に見晴台の製作依頼がありました。

## 本校での取り組み、活動を始めたきっかけ

本校では課題研究という授業があり、工業科の3年生の生徒が自分たちでテーマを決め、一年間にわたり、研究および製作を行う授業が行われています。建築科の山口班は茶室の製作、白井班は木工作品制作を行っています。そんな中、両崖山復興プロジェクトの依頼があり、課題研究の授業をこのプロジェクトに方向転換できないかと検討しました。課題研究は生徒が中心となり取り組んでいることなので、生徒たち



図1 原寸図のシート作成



図2 原寸図に作図しているところ



図3 原寸図から部材に寸法を写し取っているところ



図4 電動鋸を用いて部材をカットしているところ



図5 原寸図の上に部材を敷きならべたところ

の意思を確認したところ快諾を得ることができました。そこで、生徒12名が取り組んでいたテーマは一旦とめて、この復興プロジェクトに取り組むことにしました。

### プロジェクト開始

実際には6月18日から作業を開始することになりました。設計は地元の工務店の熊倉拓哉さんが行ってくださいました。高校生でも作ることができるよう配慮した設計になっていました。まず、実習工場の床にシートを敷き詰め原寸図を描くことから始めました。実習工場の床にシートを敷きならべて、伸び縮みの少ないテープで張り合わせていきました。最終的には4メートル四方に1×2メートル分を足し合わせたシートを作成しました。このシートに中心

線を墨出しし、基本線を描き、中心点を決め、円を描き、三角関数を用いて六角形を描いていきました。そして、骨組みとなる大引き、根太の原寸図を描いていきました。この原寸図がデッキの原型となります(図1&2)。

次の作業は骨組みの木材加工となります。原寸図にしたがって木材加工を行います。骨組みとなるヒノキ材を加工していきます。骨組みは、90センチ角の栃木県産のヒノキ材です。原寸図の上に材料を置いていき、寸法を写し取ります。通り芯、カットする線を書き込んでいきます(図3)。原寸図から、加工するための線を写し取ったら、いよいよ電動ノコギリを使ってカットしていきます(図4)。木材に書き写した、カットする線に電動のこぎりの刃をピタリと合わせて、切っていきます。初めての作業とな

る高校生にとっては、切るべき線に合わせてるのが最初は少し難しそうでした。何度か繰り返ししていくうちに、生徒たちの腕も上がり、スムーズにカットすることができるようになりました。熊倉さんが毎回、生徒たちに丁寧に指導してくださいました。カットした木材を原寸図に並べていきます(図5)。

### 活動の中で大変だったところ

コロナ禍で作業を進めていく中、感染対策を行うことは容易ではありませんでした。エアコンがない実習工場の中、暑い中でマスクをした状態での作業は過酷なものでした。また、新型コロナウイルス感染対策から、2学期は午前中授業のみの日がありましたので、夏休みを挟み、しばらくの間作業ができませんでした。9月24日にやっと再開

することができました。まずは原寸図を再び工場の床に敷くことから再開しました。中心となる六角形の骨組みを再度、組み直しました。その六角形の骨組みが「大引き」と呼ばれる部材になります。次にその大引きの上に組まれる「根太」と呼ばれる部材の加工に取り掛かります。最後にすべての部材の加工が終わり、原寸図の上に敷きならべて加工したものを確認していきます。

### 部材の接合

一般的な建築物の骨組みは、接合部分は木材加工をしていきますが、今回のプロジェクトは高校生でも加工できるように設計されているため、接合部分はボルトを用いて接合するように設計されています。そのため、次の作業はボルトを通すための穴あけ



図6 ボルトで接合



図7 デッキ材を敷きならべたところ



図8 実習工場での完成

作業になりました。電動ドリルを部材に固定して穴あけを行います。骨組みの上に配置する部材の「根太」にはボルトを締め付けるための大きめの穴を開けていきます。根太の上にデッキを貼っていくため、ボルトがかくれるように加工しました。すべての加工が終了し、ボルトを締め付け骨組みを完成させました(図6)。

### デッキ材の加工

次はデッキ部分の加工です。デッキは人が座ったり、寝そべったりする部分ですので、角を落としていきます。専用「カンナ」で面取りをしていきます。全部で40本あるデッキ材にカンナをかけていきました。これも根気のいる作業です。いよいよ、デッキの貼り付け作業です。まずは、面取りの



図9 現地での組み立て作業



図10 現地での骨組みの完成

できたデッキ材を根太の上に敷きならべていきます(図7)。デッキ材とデッキ材の隙間が等間隔になるように9ミリの端材を挟み敷き並べます。すべてのデッキ材を敷きならべたら、ビスを打ち込んで固定していきます。ビスで打ち付けデッキを固定したら、最後は六角形のベンチ部分に沿って、デッキ材を切り落とします。デッキ材が貼り終わり、加工が終了したら、最後はベンチとなる横の部分の加工です。この部分を取り付けたら完成です(図8)。

### 部材運搬・現地の設置

出来上がった部材をすべて一度バラし、現地までトラックで運搬しました。両崖山へは人が部材を担いで運びます。野球部、ラグビー部、短大附属の柔道部員の協力とボ



図 11 デッキの貼り付け開始



図 12 デッキを敷き並べたところ



図 13 ビスの打ち込みをしているところ



図 14 デッキを横から見たところ



図 15 見晴台の完成

ランテアの人たちのご協力により運搬することになりました。大引きの上に根太を配置し、ボルトで締め付けていきます。現場では最終段階なので仮止めではなく、しっかりとビス止めも行いました。ヒノキ材は固いため、ビスが何本か折れてしまうこともありましたが、実習工場で組み上げた通り、現地でも同じように組み上げていきました（図9 & 10）。既存の基礎にしっかりと固定するための補強材は現地にて現場合わせで行いました。骨組みが出来上がり、最後のデッキ貼り作業です（図11）。実習工場でやった通り、デッキ材の間隔をそろえるために木端材を挟み込み等間隔に貼っていききました。最後にみんなで一気にビスを打ち込みました（図12-15）。このビスを打ち込んでいるときはマスクミ関係者たちの歓声が

上がり、盛り上がりました。

#### このプロジェクトを通して

このプロジェクトの依頼を受けたとき、正直なところ、高校生にそんなことができるとかという不安がありました。教員間でも不可能ではという空気もありました。そんな中、生徒たちはこの話をしたところ、生徒たちは是非やってみたい、地域貢献をしたいという強い意志を示してくれました。そこで、このプロジェクトの依頼を受けることにしました。

設計および技術指導をしてくださった熊倉拓哉さんの存在がとても大きかったことは言うまでもありません。生徒たちも熊倉さんのようにボランティア精神のある方が世の中にはいらっしやることを知ることが

できました。そして、自分たちも少しでも社会貢献することができたことは、とても良い経験になったことだと思います。

このプロジェクトは多くの方々のご協力が必要であれば成立しませんでした。山火事が起きてしまったことは、とても残念なことです。しかし、新しい見晴台をつくるためのプロジェクトを企画したユニバースプロダクツ様、寄付をくださった山を愛する多くの方々、設計・技術指導をくださった熊倉拓哉さん、11月19日に現地で山頂まで部材を運んでくださった多くのボランティアの方々、看板製作のために無償で文字を刻んでくださった関口豊子様、そして多くの関係者の方々のご協力がなければできなかつたことです。

# 牛山 泉 (足利大学理事長)



## 足利大学附属高等学校の 生徒のみなさん

※牛山泉氏の役職はインタビュー当時のものである。

※※発言については、牛山泉氏は「牛山」、渡邊美樹氏は「渡邊」、足利大学附属高校生は「生徒」と表記した。

2022年2月15日 13時30分から オンライン会議 ZOOM

足利大学附属高等学校の生徒による両崖山プロジェクトの報告を終えて。

**牛山一** やっぱり、みんなが一つになって、協力してものを作り上げ、そして皆さんに喜びを与える。これは本当に素晴らしいことですよ。自分のやったことが人の役に立つて、やっぱり一番大きな喜びだと思いますよ。

それを体験できたこと、人の役に立つことがこんな嬉しいこと、楽しいことなんだということ、高校生が若い感性で受け止めたということが私は本当に素晴らしいと思いますよ。やっぱり人間ってほら、ホモ・ファールブル（ものつくる人）だから、作ることに喜びがあるんですよ。

だから、それを若いうちに体験できた。これはいいなと思いましたね。

**渡邊一** では、折角の機会ですから、生徒のみなさんから牛山先生にお聞きしたいことはありませんか？

### 大学での地域貢献

**生徒一** 両崖山の見晴台復興プロジェクトに参加して、多くの人のボランティア精神に感動しました。私自身もその一人として地域貢献できたことに感謝しています。

そこで来年から足利大学に入学しますが、同様に地域貢献する機会などありますか。

**牛山一** 大学ではこれまでも多くの地域貢献をしています。例えば、一昨年の台風では足利に大きな被害がありましたね。その時も、うちの学生の中のボランティアグループが足利のあちこちで活躍しました。10年も前になりますが、東日本大震災の時はボランティアを募って、バスで何回も東北の被災地を往復しました。

私の教え子の話をすると、彼はあの野球で有名な倉敷工業高校を卒業して、足利大学に入学しました。彼の夢は母校の監督になって甲子園に出ることだったんだけど、彼は卒業後に母校に戻って、それを実現したんですね。

5年前くらいになりますが、岡山は大きな洪水被害が出た。彼の家も水で流されてしまいました。すると、大学の昔の仲間がそれを知って手助けに行きました。社会人になっても学生時代に培った友情だね。

足利大はそういうすごい絆がある素晴らしい学校なんだよ。

### 若い人たちの感性と積極的な提案

**生徒一** 今回、ウッドデッキのベンチ製作をしました。同様の施設を大学に作り、地域の人々に開放して利用していただく考えはありますか。

**牛山一** これは具体的にウッドデッキになるかどうかは分かりませんが、同じようなこ



ZOOM 会議の様子

上段の左から白井建築科長、山口教諭、渡邊美樹氏、大野隆司氏

下段の左から福島二郎氏、牛山泉氏



発表した生徒たち

とをやるうと思えば、今の大学の中では実現することもできます。

そのためには、そこで勉強するような若い君たちが声を発し、僕たちはこんなのやったらいいと思うんですけど、どうでしょうかと提案すればよい。大学はそんなみんなの声が持ち上がって、それを汲み上げるというやり方なんですよね。

皆さんの若い感性でこういう風になると楽しい、私はこうなったらいいよなっていうのは絶対あるんだから、それを出してもうえればウッドデッキじゃなくても、いろんな形でできますよ。

だからぜひ、それを。一人だとなかなか難しい。けれど、同じ考えを持つてる人が集まると、じゃあ、みんなでやろうじゃないかとなると、できる。今回の両崖山がそうですね。

### 困難にも立ち向かう意思

**生徒** 一牛山先生が世界を回られた中で一番印象に残っている国や都市はどこですか。

**牛山** 一私、実はこれまで訪れた国の数はおよそ50か国くらいかなと思います。私が好きな国の一つはデンマークです。

実はデンマークは風力発電が盛んで、ついこの間も東京のデンマーク大使館でデンマーク大使にお会いしてきました。その時

の会食のことがレポートされて、私をファーザー・オブ・ウインド・エナジー・イン・ジャパン (father of wind energy in Japan) 日本風力発電の父」と称し、大使との懇談のことが書かれていました。

それは別として、私がなぜデンマークを好きかという、歴史を少し詳しくとわかります。

1864年、第2次シュレスヴィヒ戦争でプロイセン軍に負け、シュレスヴィヒ公国、ホルシュタイン公国、ラウエンブルグ公国（現ドイツ北部）を失い、デンマークは小国化しました。デンマークにはそういう悲劇的なことがあったんですね。

そうになると、国民は絶望ですよ。昨日まで一緒に暮らしていた人たちがここからもう向こうはドイツ領です。もう今日からドイツ語をしゃべりましょう、となる。それでも、今やデンマークは幸福度世界一を争う国です。絶望の果てから立ち上がった国、素晴らしい国だと思いますよね。それは、教育面、福祉面、医療費面、女性活躍などどれをとっても大変評価できると思います。

足利大学は今、デンマーク工科大学と提携する話が進んでいます。こういう話がデンマーク大使館の協力のもと進められています。

私はデンマークのような国をみんなであつ

くつてきたい思いますね。

### 場所が持つ慣習や伝統との調和

**生徒** 牛山先生が世界で一番美しいと思われる建物はありますか。

**牛山** 一建物はやっぱり、その美しさっていういろいろあると思うんだよね。例えば、イタリアのミラノの大聖堂は全部石でできているんだけど、人間がこんなものを作れるんだということに本当に感動します。でも、それはミラノにあるからなんだよね。同じものを日本に作っても全く感動はしない。その場所にはその場所が持つ慣習や伝統があるんですね。そのバックグラウンドとの調和で建物の美しさに感動するんですよね。

デンマークの首都はコペンハーゲンという街です。小国の港街で、昔から通商が盛んだっただ。この街には、目を引くような高い建物はないんですね。それは要するに公共を考えたものなんです。中世に建てられたハイタワーがあちこちから見えてね。それがアイデンティティをもつ街になる。ああ、やっぱりこういう哲学があるんだなって。要するに新しい建物を作っても高さが制限されており、古いものをきちんと残していく。そうすると街全体がきれいなるね。

建物、街の全体がきれいに見えるよ。街の向こうには海の上に二十本の風車がありま。羽を風の方向に直角にすると効率良くとくさん電力が取れるんだけど、あえてそこをカーブで作っています。どうしてカーブにさせるかっていうと、街のどこから見ても、その風車群が綺麗に見えるようにして、大量の風車と街とを調和させるように配置しているんですね。これも街づくりとしてはすごいなと思いますね。

**自分が楽しいこと。それが人に役に立つこと。そんな夢をもち続けること**

**渡邊** 一では最後に、牛山先生の方から生徒さんたちにメッセージをお願いいたします。  
**牛山** 一はい。私はデンマーク大使からファザー・オブ・ウインド・エナジー・イン・ジャ



岡村詩穂 君 (3年建築科)



荒川 遥さん (3年建築科)



近澤 亮 君 (3年建築科)

パンなんて言われていますが、私が風力発電を始めた45年前はみんなに、はっきり言って馬鹿にされた。そんなことやったって論文も書けないし、バカなことはやめるよと言われました。でも私は夢を掲げ、絶対これは必要だという信念をもって続けてきました。もちろん、楽しかったからで、楽しくなかったら続かなかったと思います。

私は本当に楽しいんです。これは自分の研究を続けられたからうれしんだろ。だから、やっぱり自分はこれが好きだなというものを見つけて、続けてみる。紆余曲折あっても、必ず、それが仕事につながっていきます。

ですから、夢を持ち続けていただきたい。そして自分にはこれが向いているというものが必ずあるんですね。それは、できれば



それで人の役に立つもの。やっぱり人に喜んでいただけることが大事だよな。

近年、国連でSDGsと言われています。要するに持続可能性に関することですね。

今、自分のやっていることが本当にずっと持続可能なものであるかどうか、それを考えてたらいいと思うんですけどね。例えば、ちよつと長くなっちゃうけど、東京都で一日にごみはどのくらい出ると思えますか。8000トンですよ。1日に8000トンのゴミがでます。では中国はどうか。中国の人口はその日本の10倍ですかね。各人がゴミを少し出せば、それは小さいことでも世界全体で考えれば莫大な量になる。世界全体で一人一人がちよつと気をつければ、持続可能な社会が少しずつ少しずつできていくわけですよ。

必ず見てる人がいるんです。だからそういうことで自分の楽しいこと、そして出来ればそれが人の役に立つこと。そしてそれが世界の持続可能な発展につながっていくこと。これが皆さんにとっても一番素晴らしいことじゃないかな、そんなふうに思いますね。

報告してくれた皆さんの西崖山のプロ

ジェクトは、みんなが協力してやる。しかも人のためになる。これがどんなに素晴らしいことか。若い感性で、それを体験できたことは本当に素晴らしいことです。から、ぜひそれを生かして、あの時よかつたよな、というふうに言えるような毎日を送ってもらいたいなと、そんなふうに思いますね。

はい、頑張つてやっていきましょう。どうもありがとうございます。

**渡邊** 一貴重なお話、ありがとうございます。お友達や後輩の方々に、今日の牛山先生からのメッセージを伝えてもらえたらと思います。

それではこれで終了したいと思います。皆さん、どうもありがとうございました。



図1 新たな公 概念図

注1) 国土交通省ホームページ より引用

書き手  
山口廣訓  
(足利大学附属高等学校)

# 足利大学附属高等学校

## 里山の持続的利用に向けた実業高校の「新たな公」参画 に向けての実証実験—邑楽郡千代田町と足利市名草地区を事例として

### 活動の内容とそのきっかけ

近年では、自然環境や資源の有限性が認識され、人々の価値観も自然との触れ合いやゆとりを重視する方向へと変化しています。様々な人々が多様な動機から里山に関わりを持つようとしており、市民活動として積極的に里山整備に参加するような動きが見られるようになってきました。それに伴い、都市部や都市郊外において里山保全活動に取り組み団体（以降、保全団体）が増加しています。NPO法の施行により法人格を取得した保全団体が増え、従来、行政が行ってきた事業をNPO法人へ託そうとする動きも見られるようになりました。行政と連携した活動を展開している保全団体も増える中、保全団体を設立してもフィールド確保や経済的自立が困難な状態にあるNPO法人や市民活動団体（任意団体）も存在し、継続した活動の運営が課題となっています。保全団体の規模、地域特性により、保全団体が持続的に活動する上で抱える課題は様々であり、支援のあり方を検討する必要があります。

そこで、里山の持続的利用に向けて地域住民との協働による維持管理の可能性を抽出し、その上で実業高校が保全団体の支援を展開していく際の「新たな公」参画のあり方について実証実験を通して提案しました。

### 「新たな公」による地域づくりについて

「新たな公」とは、国土形成計画（平成20年7月閣議決定）において、今後の地域経営の機軸となるべきものと位置付けられているもので、行政が提供していたサービスを行政に代わって提供していくだけでなく、従来行政が行ってこなかったような公共的な事業を行っていくもの、さらには、元々民間の事業であったものに公共的な意味を与えて提供するものなど、多様な活動に係る「担い手」となるものです。国土交通省では、平成20年度から、「新たな公」による活動を地域経営システムの基軸と位置付け、その活動環境整備に向けた検討を行っています（図1）。

### 実証実験の方法

実証実験の方法は、体験学習の一環として平成18年度からツリーハウス建設を協働で行っていた保全団体（群馬県邑楽郡新福寺里山クラブ）との活動から得た知見を基に、里山保全のための協働事例のノウハウを他の地域で活動する保全団体へ還元するため、アンケート調査を実施しました。アンケート調査は、里山・環境保全の研究を進める日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）及び建設コンサルタント会社（茨城県つくば市）と共同でアンケート調査を実施し、保全団体の持つ課題及び他団体と



図2 基礎工事



図3 デッキ工事



図4 階段・手摺工事



図5 3階デッキ工事



図6 地上7mの3階部分外観

アンケート実施概要

アンケート調査では、新福寺里山クラブとの協働事例を他の地域で活動する保全団体へ還元するために、関東圏域で活動する保全団体を対象として広域的な活動実態を把握し、保全団体の持つ課題及び他団体との連携に関する意識について明らかにすることを目的としています。関東圏域で保全活動を行う荒廃農林地整備団体662団体に対して平成19年12月27日\平成20年1月15日に郵送方式で実施し、196部の有効回答(回収率29.6%)を得ました。この内、活動内容が里山保全活動に直接関わる樹林地整備活動を行っており、財団・社団法人、

アンケート調査結果からの考察

保全団体代表者の意識を分析して、保全団体が持つ課題については、運営資金の不足や会員の高齢化、参加人数の不足などが挙げられました。これらの課題については、行政や集落・地区組織、学校・教育組織との連携によって解決できると考えている意向が導き出され、連携を望んでいることが明らかとなりました。学校・教育組織との連携を望んでいる割合が高いことが明らかとなり、実業高校の「新たな公」参画の取

り組みが現在の保全団体を支援していく上で重要であることが考察できました。

実証実験調査対象団体の設定及び協働で活動する保全団体モデルの形成

群馬県邑楽郡千代田町で里山保全活動を展開する「新福寺里山クラブ」を実証実験調査対象団体としました。本校では、近隣で活動する保全団体の事例調査として、新福寺里山クラブ代表者のK氏へヒアリング調査を実施した際にツリーハウス建設計画について意見交換を行い、里山クラブとの協働による整備活動が動き出しました。ツリーハウス建設を通して実業高校と連携して活動を行う保全団体モデルの形成を試みました。新福寺里山クラブでの協働事例では、平成18年度(2006年度)から建設作業を開始し、第1期工事として1棟目のツリーハウス建設作業を行いました。地上約2m

の連携への意識を明らかにします。そのアンケート調査結果を基に「新たな公」参画に向けての実証実験的な取り組みを展開します。

NPO法人、市民活動団体(任意団体)として活動する141団体を選別しました。アンケート調査は日本大学生物資源科学部、建設コンサルタント会社、そして本校が関わり、国土交通省の平成19年度「国土政策関係研究支援事業」に採択され、国の事業の一部として実施したものです。

実証実験調査対象団体の設定及び協働で活動する保全団体モデルの形成

群馬県邑楽郡千代田町で里山保全活動を展開する「新福寺里山クラブ」を実証実験調査対象団体としました。本校では、近隣で活動する保全団体の事例調査として、新福寺里山クラブ代表者のK氏へヒアリング調査を実施した際にツリーハウス建設計画について意見交換を行い、里山クラブとの協働による整備活動が動き出しました。ツリーハウス建設を通して実業高校と連携して活動を行う保全団体モデルの形成を試みました。新福寺里山クラブでの協働事例では、平成18年度(2006年度)から建設作業を開始し、第1期工事として1棟目のツリーハウス建設作業を行いました。地上約2m



図12 意見交換の様子



図11 パネリストによる事例発表



図7 空中回遊路 デッキ工事



図8 空中回遊路中間デッキ

の高さのデッキとその上部には屋根を設置しました。平成19年度(2007年度)は、デッキから更に上の3階部分の建設作業に取り組みました。平成20年度(2008年度)は、アンケート調査結果に基づき、ツリーハウス及び周囲には活動内容を充実させるため、子供が利用できるアスレチック施設を設けました。また、地上約7mの高さまで登れる展望箇所を施工しました。平成21年度(2009年度)は、ツリーハウスのデッキから散策

できる空中回遊路約30mと2棟目のツリーハウスを建設しました。平成22年度(2010年度)は、1棟目のツリーハウスと2棟目のツリーハウスを結ぶ空中回遊路を約70m延ばし、施工しました(図2～図10)。連携の効果として、里山内にシンボルとなるツリーハウスを建設したことで、地域住民からの理解や施設利用者が増加し、取り組みが新聞社やNHK番組にも取り上げられ地域へのPRになりました。

### 「里山保全団体の活動交流会」の企画・運営の取り組み

アンケート結果では、連携による意識が高く、組織間での得意分野や情報の交換を望む傾向がありました。そのため、実験的に保全団体支援の取り組みとしてとちぎ協働デザイン講座「里山保全団体の活動交流会」を企画しました。相互交流を通じて、里山保全活動への見識を高め、相互の連携を強化し、活動の質的向上を図るために実施しました(図11～図12)。「里山保全団体の活動交流会」では、行政、学術機関、保全団体を合わせて11組織の参加があり、自立した団体運営を展開する上で「新たな公」が担うべき課題について議論されました。具体的な内容としては、行政主導で設立した保全団体の持続的な活動運営を展開するための支援のあり方が挙げられます。組織間をコーディネートする中間支援組織の必要性が取り上げられました。

### 地域活性化に向けた「名草地区整備事業」への参画



図9 1棟目のツリーハウス



図10 2棟目のツリーハウス



図 15 整備計画案の提案

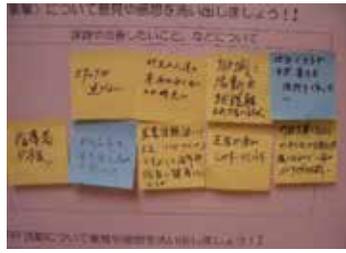


図 14 KJ法による分析



図 13 ワークショップ

足利市産業振興部からの依頼で本校が地域活性化に向けた「名草地区整備事業」のオプザーバーとして参加することとなりました。ここでは、組織間をコーディネートする中間支援組織として実証実験的な取り組みを試みました。足利市産業振興部と名草地区住民、NPO法人名草里山の会（里山保全団体）の調整役を担いました。名草地区の整備計画を検討するための名草地区住民ワークショップに参加し、現在の名草地区の持つ課題や地域活性化を図りたい内容についてKJ法によるグループワークが行われました。抽出された課題の中で、「新たな公」が担うべき調整課題として、「行政主導から自立した活動の展開を望む」というグループ意見に注目しました。その中で、「参加者との協働作業で体験施



図 16 小学校総合学習での活用



図 17 地域の子供たちの利用



図 18 地元幼稚園の体験学習

### 今後の展望について

本研究調査では、里山の持続的利用に向

設を作りた」という意見が挙がりました。行政側と住民側の意見の調整を図る目的で、本校が取り組んだ保全団体形成モデル事例である、新福寺里山クラブでの活動の展開やノウハウについてプレゼンテーションを行いました。その過程を経て、本校がこれまでの里山整備活動を通じて検討した名草地区整備計画案について提案をしました（図13～図15）。

行政主導から立ち上げられた保全団体は多く存在しているが、自立した運営までのビジョンやノウハウが乏しい状況にあるため、行政、地域住民、民間団体の連携を調整する中間支援組織の必要性が挙げられます。実業高校である学校・教育組織もその一端を担えることが明らかとなりました。

けて、地域住民、行政、民間団体、教育機関が協働展開していく際の「新たな公」参画に向けた実証実験的取り組みを試みました。その結果、実業高校が里山の持続的利用に向けた保全団体支援、つまり「新たな公」の一端を担い得る可能性があることが分かりました（図16～図18）。しかし、活動主体として成熟が必要であり、それぞれの保全団体の位置付けや実情を考慮した、長期での育成支援やこれを担保するための政策・制度の検討・整備が必要となります。地域住民と行政、民間団体、教育機関が連携・合意形成のもとで里山が持続的に維持管理できる適正な範囲や活動支援、情報交換などの円滑化に取り組むことが今後の課題として挙げられます。今後は、さらに事例研究を積み上げ、実業高校が持つ専門性を地域貢献に資する可能性を模索していきたい。



図2 あしもりマークの缶バッジ



図3 あしもりマークのステッカー



図1 あしもり隊の生徒のみなさん、記者会見（2021年10月15日）

#### 話し手

あしもり隊

#### 聞き手

大野隆司

## 足利清風高校＋足利工業高校

### あしかが高校生クラブ『あしもり隊』

#### 活動の内容とそのきっかけ

あしかが高校生クラブ『あしもり隊』は2021年6月に結成されました。あしもり隊の由来は、「足利市を盛り上げたい」という思いからです。活動の目的は、「足利市を明るく楽しくさせること」、「足利市の魅力を発信すること」、「足利市制100周年をお祝いすること」、「足利市が困っていることを解決すること」の4つです。

2021年度の主な活動内容は、①あしもりマークグッズの作成、②あしバスアツシーラッピング、③JR足利駅周辺活性化事業でした。

①あしもりマークグッズの作成（図2&3）

「足利を盛り上げる活動」のシンボルとして発表された『あしもりマーク』をより多くの方に知っていただき、「足利を盛り上げる活動」に活用してもらえよう、缶バッジとステッカーを作成しました。『あしもりマーク』のデザインをそのまま活用したものに加え、「あしもり隊」アレンジバージョンのグッズも作成しました。アレンジバージョンの缶バッジは足利市の自然豊かなところと足利フラワーパークが有名などところから花をイメージして制作されました。また、ステッカーはより広い年齢層に手に取って欲しいという思いを込めて、小さな子供や若者にむけた可愛らしいデザインに仕上げました。また、スマートフォンに貼れる

## あしバスアッシーラッピング

時期：2021年10月22日～実施中(2022年4月21日現在)

台数：中型バス4台

足利工業高校：te to te design labo 1台  
銘仙柄デザイン1台

足利清風高校：イエローバージョン1台  
パープルバージョン1台

運行路線名：

小俣線、松田線、富田線、行道線



図5 集合写真(足利清風高校)



図6 集合写真(足利工業高校)



イエローバージョン



パープルバージョン



te to te design labo



銘仙柄デザイン

図4 あしバスアッシーのラッピング・イメージ

サイズにしたり、再剥離シートというどこに貼ってもはがせる素材にしたり工夫されています。足利市役所の売店において販売中で、売り上げは手数料を除き全額若者の足利を盛り上げる活動に充てられます。

②あしバスアッシーラッピング(図4～6)

足利市生活路線バス「あしバスアッシー」にラッピングデザインを施しました。このデザインは、足利のまちを明るく盛り上げるため、学校で学んでいることや、「あしもり隊」ならではの発想やアイデアを活かし、思いを込めてデザインしました。足利工業高校チームは課題研究の授業の一環で作成した「te to te デザイン」、「銘仙柄デザイン」を活かし、見ている人が明るく楽しい気持ちになるようデザインを考案しました。一方、足利清風高校チームはラッピングバスを見かけた方に幸せが訪れて欲しいという思いから「あしもりマーク」の形を活かし、

“幸せを運ぶ風船”をイメージしデザインしました。

③JR足利駅周辺活性化事業

キッチンカーフェスティバル(図7～9)

JR足利駅の「電車の待ち時間が長い」、「駅周辺の空き地空

き家が多い」という地域課題に気付き、これを少しでも解消しようと、多くの高校生が滞留するJR足利駅の北口の空き地を有効に活用し、キッチンカーイベントを開催しました。市内の高校、駅、市役所など10ヶ所、電車の利用時間や放課後に何を食べていかをアンケート調査して、出展時間と出展店舗を決めました。当日は500人以上の来場があり、定期的な開催を求める声が多くありました。

構内の装飾(図10～14)

JR足利駅構内の連絡通路や南側階段に銘仙柄のデザインや足利の風景をカットイングシートにして貼り付け、多くの人が行き来する構内に彩を与えました。さらに、構内の一角に足利の名所とそれを伝えるメッセージをインスタグラム風にデザインした紹介ボードを展示しました。足利をはじめ訪れた観光客にも足利の魅力を発信し知ってもらう機会となりました。

### 高校生たちの純粋な想い

「あしもり隊」に所属する高校生たちの「足利市を盛り上げたい」という純粋な想いから活動が始まりました。「地域の課題を洗い出すため、足利市の現状を分析」、「地域課題を解決するために自分たち高校生にできることはないか解決策を考える」、「実際にやってみる」、「結果はどうだったのか、そ

## キッチンカーフェスティバル

2021年11月5日 15:30 から 18:30

場所 :JR 足利駅北口駅前広場

主催 :あしもり隊足利清風高校グループ

出店 :ケバブエレン、Nido SAND、ねこにレモン、PKT、フクレ



図9 作業風景 (足利清風高校)



図8 ケバブエレンと高校生による新商品の共同開発を記念して



図7 キッチンカーフェスティバルのチラシ

の効果を検証する」という4つのステップをしっかりと踏むことを意識しながら、今年度は足利工業高校8名、足利清風高校6名、合計14名の生徒が活動を行いました。

**苦労はしたが、得られたこれまで感じたことのない達成感**

コロナ禍のため思うように活動できない期間があり、限られた時間の中で活動しなければならなかったことが、最も大変だと感じました。しかし、その分それぞれの活動に対する達成感がより大きくなったと感じています。

自分たち高校生が何かをすると、新聞、テレビから多くの取材があり、思った以上にたくさんの人に知ってもらうことができ、とても嬉しく思いました。また、自分たちが一生懸命にデザインしたラッピングバスが、実際に足利の町中を走っているのを見た時は、鳥肌が立つほど感動して、これまで感じたことのない達成感を体験することができました。活動を通して、これまで何気なく過ごしてきた足利の魅力や課題について、自然に考えるようになりました。今後は、足利を知らない人にも足利の魅力が伝わるような活動や、足利の地域課題の解決につながるような活動をしていきたいです。

活動を陰ながら支える高校の教員は、「活動を通して主体的に活動をできるように

なっている。これは活動をサポートしてくれる多くの地域の方たちのお陰なのだろうと思う。学校の中だけではどうしても限界があつてできないところは多いが、この活動を通して生徒たちがこんなに成長できたのは私もすごく嬉しい」と振り返って話しています。

**現在、連携している団体**

JR足利駅、キッチンカーイベントに出店された店舗、そして足利市役所や地域おこし協力隊、コーディネーターのみなさん。JR足利駅は高校生と連携するのははじめてでした。また、キッチンカーフェスティバルに出店されたケバブとクレープ2店舗は、イベント後にも新商品の共同開発も行っています。

**OBOGが気軽に戻ってこれて、現役の高校生と一緒に活動ができる場**

今後は私立も含めて連携する高校を増やしていきたい。また、毎年卒業していくOBOGが気軽に戻ってこれて、現役の高校生と一緒に活動ができる場をつくることで縦のつながりが生じるし、幅広い活動に展開していくと思います。

**他の世代に望むこと**

「あしもり隊」の活動はまだ始まったばかり



図 11  
足利工業高校による「銘  
仙柄デザイン」



図 12  
足利清風高校による「普  
段見ることのない足利  
を切り取った風景が見  
える窓」

## JR 足利駅構内の装飾 第 1 弾

2021 年 12 月 9 日～実施中

(2022 年 4 月 21 日現在)

連絡通路：

足利工業高校による「銘仙柄デザイン」と「te to te デザイン」

南側階段：

足利清風高校による「普段見ることのない足利を切り取った風景が見える窓」



図 10 作業風景（足利工業高校）

## JR 足利駅構内の装飾 第 2 弾

2022 年 1 月 12 日～実施中

(2022 年 4 月 21 日現在)

足利工業高校チーム

「どこでもドアの先に広がる私たちの足利」



図 13 集合写真  
(足利工業高校)



図 14 装飾後の駅構内

りなので、現時点では、「あしもり隊」の存在をより多くの方々に知っていただくことを第一に考えています。足利を盛り上げる活動のシンボルマークとして発表した「あしもりマーク」を身に付けてもらい、「あしもり隊」が開催するイベントへ参加していただくなど、まずは活動を温かく見守り、応援していただければと考えています。将来的には「あしもり隊」の原点である「足利市を盛り上げたい」という想いを大きく

実現させたいので、同じ想いを持つ様々な世代の方々を多く巻き込んでいけるよう、徐々に連携の範囲を広げていくつもりです。他の世代の方々から「あしもり隊」との連携を打診された際は、お互いの課題を解決できるよう、Win-Winな関係で連携していきたいと考えています。

成果の閲覧

<https://www.ashikaga-citypromotion.jp/news/?category=3>





書き手  
木村寛

聞き手  
北村隆



元 足利市教育次長 木村 寛

## 歴史と文化のまち足利

### 活動の内容とそのきっかけ

(1) 足利市の市民活動センターで、「まちの縁側」～読書サロンへの招待の活動に参加をしています。

担当例…中村天風「運命を拓く」講談社

辰濃和男「四国遍路」岩波新書

関連して、「四国遍路」体験の私の感想をお話し、興味、関心のある方々のお話を聞かせていただいています。(2～3回)

(2) 特定非営利活動法人「足利歴史まちづくりの会」の一員として、「歴史のまち足利」のまちづくりに寄与するための活動に参加しています。

### 活動をはじめた理由

(1) の理由

民主主義の原点は、市民(民衆)のひとり一人の思い、考え、意見などが大切にされ、自由に発言できる場が必要です。読書会は、そのような理念に沿った運営がなされていて、私にとって、貴重な場と思えたからです。

また、中村天風「運命を拓く」は、47歳の時、大腸がんで入院、手術の闘病生活に出会った一冊であり、辰濃和男「四国遍路」は、医師であった31歳の長男を病気で亡くし、その後、私の四国遍路の旅の体験の中

で出会った本でした。

## (2) の理由

「歴史のまち足利」は足利学校と饒阿寺だけでしょうか。それらは、足利にとって大切なものであることは、もちろんです。でも、足利には、100を超える神社、寺があります。そこに、地域住民（民衆）の祭り等民俗もあります。足利地域において本当にそれらが守られているのでしょうか。

現存する足利学校の姿は、平成3年に復原されたものであることを、どれほどの市民、観光客の方々がご存じでしょうか。旧東小学校の移転から始まって復原公開まで、様々な分野の多くの人々の尽力によって完成したものです。詳細は、足利市教育委員会「史跡足利学校跡保存整備報告書」にあります。風格ある「歴史と文化のまち足利」のまちづくりの基本は、まず、足利の歴史と文化の玉を磨くことからではないでしょうか。市民の命と安全を守ることは第一ですが、また、財政を豊かにすること、経済を回すこともまちづくりには大切なことです。しかし、その地域全体（歴史のまち足利）にとって、根幹となる事業であれば、たとえ儲からない事業（政策）であっても、信念と勇気を持って実行することが、今こそ

足利にもとめられているのではないのでしょうか。

足利学校の保存・復原事業は、今や足利の貴重な観光収益の一つとなっているではありませんか。

榊崎寺跡保存整備事業、歴史博物館（資料館）または国宝館（国宝・重文が展示可能な）建設など、風格ある「歴史のまち足利」にふさわしい磨くべき玉なのではないでしょうか。

## 活動を通じた、さまざまな分野の方との出会い

読書会の中で、さまざま思い、考え、体験等を聴くことができ楽しかった。また、さまざまな分野の方との出会いがあり、現役時代にはない楽しみがひろがりました。

## 今後の活動について

市民活動センターの活動の中で出会った、「足利歴史まちづくりの会」の一員として活動しています。

## 活動の展開と事業・政策の実現に向けて連携・協力

「足利歴史まちづくりの会」の会員の総意

に基づいて活動していくものと思います。

個人的には、「歴史のまち足利」に関心を持つグループ、団体は、それぞれの特色をもちながら、活動を展開しています。できればそれらのグループ、団体と、未来の風格ある「歴史のまち足利」をめざして（共通の目的にして）、具体的事業・政策の実現に向けて連携・協力ができればと思っています。

## 他の世代に望むこと

これからは、若い世代が足利のまちづくりに参加していただきたい。大学は、学問の府であると同時に地域に開かれた、地域の課題解決に向けた教員、学生（若者）、地域住民・行政との連携が必要ではないでしょうか。

## 他の活動団体への質問、提案

特にありません。



新藤家庭園で説明をしつゝくださる外丸さん

### 話し手

外丸 実

### 聞き手

渡邊美樹  
MIKG HOU  
LIU YANG

### インタビュー日時

2022年2月16日(水)

## 足利庭園文化研究会 外丸 実

# 独自の庭園文化を評価へつなげる

### 活動の内容とそのきっかけ

15年前に足利市内の庭園を調査したことをきっかけに、足利市の庭園文化を残すための活動をしています。

### 足利の古庭園を保存し、活用する

そもその始まりは、足利の古庭園を残したい、保存したいということでした。現在は保存・継承に関連して「活用」をなんとかできないかと思案を進めている段階です。

### 庭文化と所有者の苦勞

活動で一番苦勞しているところは、活動よりも所有者さんのご苦勞が解ること、傍目ではとても解らない苦勞です。

### 庭文化を継承するための連携

足利に思いを寄せている団体さんは色々いらつしゃいますが、現在は庭に関わらず様々なグループとお付き合ひさせてもらっています。また、物外軒の公開業務と庭園管理業務を足利市から委託されています。現在足利庭園文化研究会は顧問の先生を入れて24名くらいです。会員は学識者や造園業者ほか、庭園が好きな市内外の一般市民がメンバーです。15年前に足利市では文化財調査が実施され、私たちは京都造形芸術大学の仲先生の庭園調査に関わらせていただきました



足利庭園文化研究会の活動は「庭」2021年冬（創刊45周年特別号）に詳述されている



右：足利庭園文化研究会の研修で行われた樹木の手入れの様子。行き届いた手入れがなされていたが、低木、高木ともに成長しすぎていた



左：講習後の様子。スッキリとし庭園の地割も分かり、往時の姿を取り戻した（「庭」2021年冬（創刊45周年特別号）p.104より抜粋）

た。その成果は「足利市歴史文化基本構想」の中にまとめられています。

**保存活用、そして活用への道**

もちろん保存活動したいのが目的なので、できるだけそういった思いを持つ人達とうまくタイアップして保存活用、特に活用の道を進めたいと思います。

**庭の文化を広く伝えたい**

「連携する」その前に、足利の庭園のことを伝えたいという思いが先です。おそらく市民をはじめ大学生や高校生などは、足利の庭園文化について知らない人が大半ではないでしょうか。また、そのような文化があることすら知らない人も多いと思います。文化の保存や継承には、若い世代の創造と行動力に大きな期待と可能性があると思います、これまでに小学生や高校生とイベントなどを通して文化財に接する機会を設ける事業などを実施しました。現在はその先のステップを目指し、市内の工業高校の生徒さんとともに所有者への支援事業などの計画を進めています。これからの庭園の保存や継承には、多くの人たちから理解と協力を得ながら庭園と建物の利活用を考える事が重要なのではないかと思います。



新藤家庭園（「庭」2021年冬（創刊45周年特別号）より抜粋）



右：主催した「足利庭園めぐりツアー」の様子  
左：地元の文化財に興味をもってもらおうと、地元の小学生を招いて行った巨石運搬の体験会（「庭」2021年冬（創刊45周年特別号）p.105より抜粋）





書き手  
清水弘一

聞き手  
福島二郎

足利リビルドの会 会長 清水弘一

## 足利の文化・産業のシンクタンクとして

### 活動の内容とそのきっかけ

#### 1) 足利歴史博物館の創設活動

早川市長、栗原議長宛に「足利市に国立中世博物館創設の要望書」を令和3年12月提出し、歴史博物館への一考察を具申しました。引き続き準備活動継続中。

過去に、「足利歴史資料館創設の要望について」、「歴史資料館創設のお願い要望書」を二度、市議会議長宛に提出した経緯があります。

#### 2) 観光促進活動と出版活動

松崎洋二著作

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 「足利義兼」   | 5 「私本吾妻鏡」   |
| 2 「鏝阿寺」    | 6 「両崖山」     |
| 3 「足利歴史散策」 | 7 「足利ものがたり」 |
| 4 「新吾妻鏡」   |             |

松崎洋二冊子

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1 「足利源氏の発生と繁栄」 | 6 「足利源氏早わかり帳」           |
| 2 「国宝鏝阿寺のご案内」  | 7 「天狗山と山神社」             |
| 3 「足利義氏と法楽寺」   | 8 「尊氏君の足利歴史研究 太古から足利幕府」 |
| 4 「足利歴史観光かゝるた」 | 9 「尊氏君の足利歴史研究」          |
| 5 「八幡宮」        | 10 「尊氏君の足利歴史研究」         |

川田享男冊子（両毛新聞及び歴史講座資料）



会議の様子



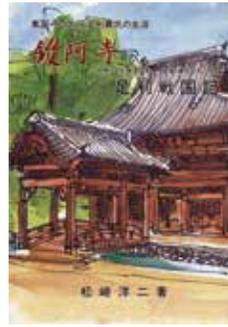
清水弘一 氏

松崎洋二 著  
足利歴史観光かるた  
「に」  
日本最古の足利学校

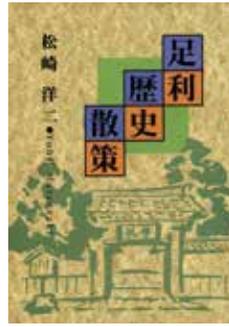
- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>1 「足利源氏ものがたり 尊氏以前の父祖たち」 義兼まで」</p> <p>2 「足利源氏第三代 義氏のこと」</p> <p>3 「第四代泰氏・第五代頼氏のこと」</p> <p>4 「第六代足利家持のこと」</p> <p>5 「足利尊氏のこと 生い立ちなど」</p> <p>6 「足利尊氏のこと 室町幕府の始まりと観応の擾乱の前後」</p> <p>7 「足利尊氏のこと」</p> <p>小林唯男著作「仏道要集」<br/>小林唯男 冊子</p> <p>1 「正法眼蔵随聞記」</p> <p>2 「禅の真諦と俗諦」</p> <p>3 「生命の神秘」</p> <p>4 「沙弥」</p> <p>5 「信心銘」</p> <p>6 「大乘仏教哲学（空）」</p> <p>橋本廣至「小説足利伝」（尊氏伝） 両毛新聞</p> <p>足利リビルドの会編「足利源氏を知ってもらう会会報」をゆかりの会・行政機関な</p> | <p>観応の擾乱とその後</p> <p>8 「足利直義のこと」</p> <p>9 「室町幕府第二代 将軍足利義詮のこと」</p> <p>10 「足利義満のこと」</p> <p>11 「南北朝正閏論の 周辺 足利源氏の歴史」</p> <p>12 「足利学校のこと 上杉憲実による 再興以前は」</p> <p>13 「鎌倉末から南北朝への移行の中で」</p> <p>14 「足利義政のこと」</p> <p>の理論と心の浄化」</p> <p>7 旅人の「心中解体」</p> <p>8 「復活した天狗山」</p> <p>9 「足利知足塾のカルタ」</p> <p>川田亨男</p> <p>1 「足利源氏ものがたり」 白鷗大学附 属高校</p> <p>2 「足利源氏の誕生 足利義兼まで」</p> <p>3 「足利の礎となった男」 足利義兼公」 葉鹿自治会館及び榑崎寺</p> <p>4 「歴史自主講座」 至学習センター</p> <p>吉澤菊男</p> <p>ドローン撮影 足利学校、饒阿寺、吉祥寺、榑崎寺、浅間神社、福厳寺・法楽寺・足利</p> | <p>どに配布。</p> <p>清水弘一 冊子「足利源氏棟梁の和歌」、「足利市の歴史博物館への一考察」 両毛新聞に掲載。</p> <p>飯島秀雄 冊子</p> <p>1 「木村邸について」</p> <p>2 「住まいの教室」 住まいは人生の文化生活・住まいは人間形成の場の講演。</p> <p>3 伝えたい足利の職人技展</p> <p>4 子供民謡・民舞の指導・発表公演。</p> <p>3) 講演活動 他</p> <p>松崎洋二</p> <p>1 「歴史で足利まちおこし」 市民会館別 館ホール、渡良瀬テレビ放映</p> <p>2 「足利源氏を語る」 厳華園DVDに収録</p> |
|--|---|--|



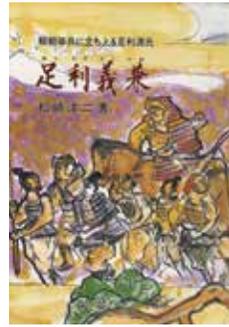
①



②



③



④



⑤

松崎洋二 著作

- ①新・吾妻鏡 一足利源氏の視点から一
- ②鑊阿寺 一足利戦国記一
- ③足利歴史散歩
- ④足利義兼 一頼朝拳兵に立ち上る足利源氏一
- ⑤私本 吾妻鏡 一足利源氏の戦い一

高等学校等の放映活動

清水弘一

「ガラスの話」、「アールヌーボーのガラス」  
至市民活動センター

中原将夫

松崎洋二

足利源氏の八木節作詞  
足利源氏の八木節作詞

地域の活性化に寄与するシンクタンク

足利市の文化・産業の各分野についてシンクタンクの立場で積極的に提案し、地域の活性化に寄与することを目的として「足利ビルドの会」（足利再構築）を設立しました。

足利を愛し、誇りに思っていること

会員の高齢化によるメンバーの減少傾向と若手の会員が増えていない現状、それを打破することが目下の課題です。

楽しいところは、会員が足利を愛し、誇りに思っていること。会員それぞれが分野のエキスパートであること。そして敬愛できる方々であることです。

さらなる輪を広げる

あともいの会、足利市女性団体連絡協議会、あしかが歌舞伎親子教室実行委員会、葉鹿仲町自治会館屋台蔵、木村半兵衛顕彰

会、NPO法人里山ウエルネスの会、足利雅楽会とこれまでに連携してきました。

今後は地元中学校・高校・大学の学生と教職員の方々、自治会や観光団体等に輪を広げたい。

今後の活動とその展開

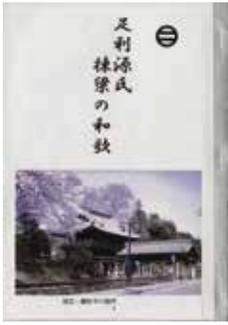
博物館創設については

A. 史跡足利学校五味文彦庠主は日本中世史の権威です。五味庠主の学問思想に基づいて、足利市に必要な中世史観（時代区分、博物館で取り上げる清和源氏系統と分脈の区分等）を明示して頂きたいと切望致します。

B. 足利市民の皆様を始めとして、文化庁や新聞等に発表する「国立中世博物館創設の意義・趣旨」を足利学校研究員・愛護協会会長 市橋一郎先生に作成して頂きたいと願っております。

C. 博物館の中世のテーマ分類による展示室のレイアウトや展示品の概要について、五味文彦庠主、足利学校学芸員 大澤伸啓氏、文星芸術大学准教授大澤慶子氏、足利文化財愛護協会理事足立佳代氏他 市井の権威の方々に明確化して頂きたいと願っております。

D. 足利歴史ミュージアム設立推進協議会（仮称）を設立。その会長と上記メンバーの方々で概要の合意をして頂き、



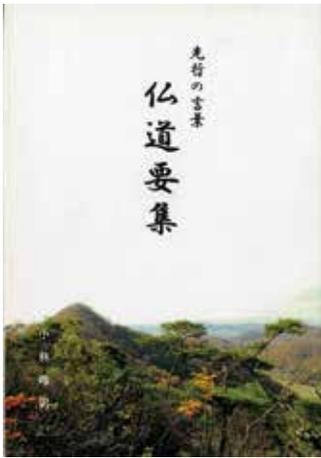
足利源氏  
棟梁の和歌



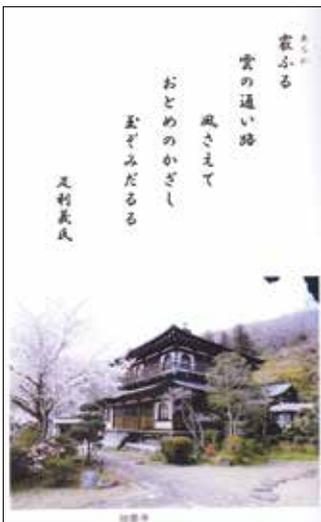
足利源氏  
早わかり帳



NPO 講座 アールヌーボーのガラス



小林唯男 著  
先哲の言葉 仏道要集



「足利源氏 棟梁の和歌」より

- 博物館建設予定地及び概算費用の策定をお願いしたいと願っております。
- E. 「足利歴史ミュージアム設立」のスローガンのもと、足利市民の署名活動を行い「足利愛・郷土愛」を発揮していただきたいと願っております。
- 署名活動を始めとする市民運動の盛り上がるの熱意・大きさの伝わり方次第でマスコミ・文化・学術・政財界等々国内外に喧伝することで、多くの皆様の支持を得られるものと信じます。
- F. 足利歴史ミュージアム設立推進協議会（仮称）の会員募集の呼びかけ・確保により、市民のミュージアム設立の意義がより周知され、会員の会費も浄財となり、設立資金の出発点となります。
- G. 市制100周年を契機とする記念事業として、多くの市民の皆様からミュージアム設立の要望の声が高い今こそ千載一遇の好機と捉え市民の夢を現実させましょう!!
- その他案件については
- A. 松崎洋二氏及び川田享男氏の講演 D V D や講演集を広める活動。
- B. 白石山房・物外軒・荻野万太郎邸・木村邸や戸田藩陣屋門の保護・移築に携わる活動。
- C. 足利の偉人達の検証。（荻野万太郎氏ほか）
- D. 足利の寺社に一斉曝書実施の提案推進。
- 足利の魅力を感じ取って頂くことを望む**
- 前述と重なりますが、足利の高校・大学生・専門学校生たちとの交流から、足利の魅力を感じ取って頂きたいと考えています。
- 他の活動団体への質問、提案**
- 他の団体の活動内容やご意見を伺いながら、進めたいと思います。



図1 近代化遺産の保存と活用を考える講演会の様子（2020年11月28日）

書き手  
富田和則

## 富田和則

# まちの価値を再発見したい

### 活動の内容

本業は個人事業で建築設計事務所をしています。勤めていた会社を退職し独立したのを機に地元足利に帰ってきました。足利学校や鏝阿寺のある旧市内地域に住みたいと思い、2015年から通二丁目の北仲通りに近い場所で事務所兼自宅として職住一体の生活をしています。

本業以外の活動で関わっているものが2つあります。足利にある近代化遺産の保存と活用のための調査・研究をする市民グループ「足利の近代化遺産を考える会」（以下足近）で2020年から事務局を担当していますのと、同年から自分たちでつくった設計者仲間、足利とその周辺でまちが活性化するような面白いことを試みる「足カットチーム」での活動です。

### 活動を始めたきっかけ

足利の地勢は足尾山地に繋がる山エリアがあり、また市の中央の町エリアはJRと東武私鉄の駅のある交通の便もよい場所となっています。自然が豊富にある山エリアと歴史の残る町エリアの二つが程よい距離感であるので、この二つをより活かせるような取り組みができないものかと日々思っていました。

そこで、歴史ある足利のまちの特徴を生



図3 山の現地確認



図4 ヤマカツワークショップの様子

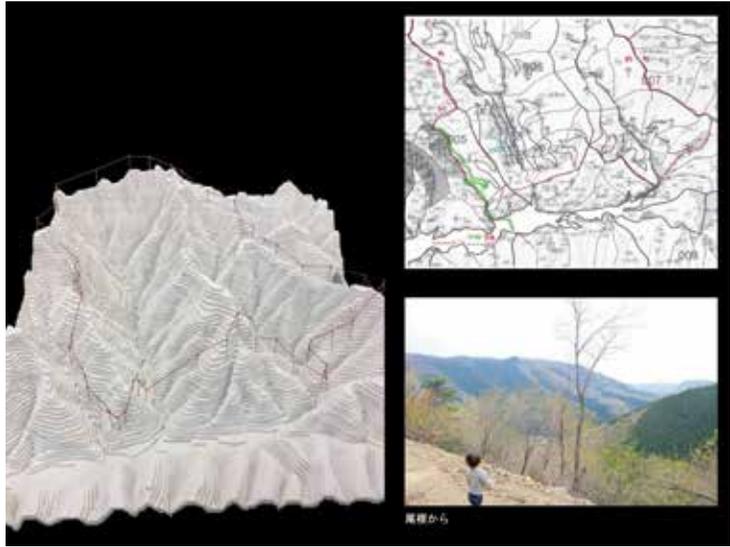


図2 山の全体を把握するための航空写真や地形図そして全体模型

かすとしたときに、既に名所となっている社寺等以外で町にさりげなく残っている近代化遺産建物等をうまく活用できたらよいと思い勉強会に参加したのが足近です。旧市内地域に住むようになって周辺を散策していて、どことなく感じる懐かしさが魅力的な近代化遺産建物を多く見つけることができました。しかし中には長い間メンテナンスされず放置状態で晒され朽ちるのも時間の問題と思われるものもあります。市民の間でもほとんど認知されていないように思われる建造物でも、価値があるものとして保存しうまく活用ができるように働きかけるお手伝いができればと活動に参加することにしました。

もうひとつの、足カツですが、まちの中のことを考える「マチカツ」と、足利北エリアに広がる山林地域を活かすことを考える「ヤマカツ」の大きく二つのフィールドで考えてみています。3年ほど前に、私の住まいの近くにある築50年くらいの空きビルを使って屋内シューティングサバイバルゲーム（サバゲー）をやっているグループと知り合いになりました。時折ゲーム会場をのぞきにいった主催者と話をしていくうちに、どうせであれば屋内でなく自然豊かな足利北エリアの屋外フィールドで子どもも大人も一緒に遊べる場をつくったらどう

かと提案をしました。そこではサバゲーに限らず、自然のなかで遊びながら体験勉強ができるかよと思いました。設計の仕事のつながりで、足利の山をいくつか所有している林業家と親しくさせていただいて、することもあり、小俣北のエリア（約2km四方）を借りられることになりました。

### 活動の中で学ぶこと

#### ■足近について

事務局として関わってこの2年間ほど、会で年一回主催している「近代化遺産の保存と活用を考える講演会」の準備を担当してきました（図1）。足利大学の福島二朗先生が中心になり企画しているもので、近代化遺産（土木・建物）について、市内外の建造物、保存や利活用の先進的な取組みについて理解を深めてもらう主旨で行っています。毎年多くの人に参加していただき、満足をお願いしているのは事務局として大変有難いことです。

また足近の「考える会」として主たる活動では、まちにある建物の保存と利活用を検討していく場面があります。普段は建築設計をしていることもあり、仲間と議論しながら検討していくことは前向きで楽しい作業です。建物について調査し理解を深めながら一般者向けに見学会や勉強会などの



図5 鹿沼市にある古民家

回数を重ねていくと、特別な思い入れや深い愛着を持つていく方々が自然と集まってきて、徐々に機運が高まっていく様子を見ることができました。しかし、当然ですが敷地や建物は人の所有物ですので、所有者と意思疎通を図ることができなければ、よかれと思ってやっている活動が逆に身勝手な行為と認識されることも懸念されます。会に関わる方はほとんどがボランティアで、社会的立場やスキルも多様ですが、土地建物という資産に踏み込むときは慎重にしないといけないと感じているところです。

#### ■足カッツについて

借りた山林は広葉樹が多いエリアで、昔は狩り専用の場所として使っていたとのことで、今回の遊びフィールドにちょうどよいのではと話が盛り上がっていきました。山の全体を把握して検討を始めるのに、航空写真や地形図だけだと特に高さ関係のイメージがわかりにくいので、まず全体模型を作りました(図2)。このように上空から見て尾根や沢の形が浮かびあがってくると、活用イメージはどんどん膨らんでいきました。

しかし一番のハードルは山の斜面が急であることでした。サバゲー関係者や市内で子ども食堂をやられている方を入れて利活用ワークショップを行いながら、現地に足

を運び探索しましたが(図3&4)、模型の通りで全斜面が急なことで、道路からやや遠い位置にあることで、現地に行くまでに大人も体力を消耗してしまつて、ゲームに至らないことを体感しました。また市街化調整区域のため建築制限が厳しく、トイレなどの小さな仮設建物の設置も難しい区域であり、レクリエーションとして使うのはハードルが高い場所でした。

#### 今後の活動の展開について

これまでしてきた活動のほとんどは、ほぼスムーズに進んでいません(笑)。しかし何か活動をしていると他でいろいろなチャレンジをしているグループや中心人物と知り合いになります。話をしていくと、ゼロから事業の立ち上げに関われることにモチベーションが上がる人たちが多くいて、地域や人々が元気になること面白いことをやりたいと前向きな気持ちの共有ができていきました。

今までは実行に至る前段の机上論に留まっていたましたが、これからは協力者の力を積極的ににお借りし具体的に実践していきたいと考えています。

■鹿沼市にある古民家の利活用の依頼(図5)

昨年の秋ごろですが、今は住み手のいな

い古民家について、引き継いだ所有者から建物を活かして保存をしていきたいと依頼がありました。国道に接した敷地（合計4000坪）で、威風堂々とした茅葺の鉄板覆い屋根の主屋と石造りの蔵2棟があります。主屋には土間玄関、五右衛門風呂、かまどの台所と、ジブリアニメ作品に出てくるような設えが残っていました。庭には大きくて立派なケヤキの木があり、遠方からもよく見える目印になっています。家の屋号は最寄りのバス停名にも使われているほどで、この地域一帯の大地主の農家だったことを窺わせます。

与条件としては無償で自由に使ってほしい、ただし大規模改修の費用捻出は難しいことを理解したうえで、何かやってほしいと話をいただきました。一般的な仕事として依頼がある場合は、用途や規模は決まっているところからスタートが常ですが、このように自由に利活用を考えるとそこからスタートすることはあまりありませんので、貴重な機会だと楽しみに取り組んでいます。走り出しはボランティア要素の強い形で進むことになると思い、こういう案件を面白がってやってくれる仲間、繋がりを最大限に使って展開できればと考えています。手始めに、主屋の家財や不用品の片付け、イベントを仕掛けていくための整地作業など

に協力してくれる人を見つけて進めていくところです。この地域で必要とされる施設とは何か考えながら、国道沿いの立地を活かしたことにチャレンジしたいと考えています。

#### ■足カツ

ヤマカツは一時凍結状態でしたが、今年に入ってから猟銃で鹿打ち協力をしてくれる人が見つかりました。林業としても植林した苗木を鹿に食べられてしまう被害が多いので、所有者には歓迎されました。近いうちに現地確認に同行する予定となっています。猟師の目線も加えて現場の利用方法を再発見できればと思っています。

足利学校のある「教育のまち」を軸としてヤマとマチを連携していくような取り組みがしたいと思っています。将来はまちに森を山に教室をつくるようなイメージで、勉強できるフィールドをいくつかつくり、大人も子どもも心身ともにたくましくなれる自然と人一体の学校のようなものをつくることを構想しています。

**これまで連携してきた方々と、これから連携していきたい方々**

仕事等を通じて協力し合ってきた設計者仲間、木材関係者（林業、製材、ログハウスビルダーほか）と公私に渡り連携させて

いただいています。

まちの活動に手練れのイベント仕掛人や、子ども食堂等の慈善活動をしている方と一緒に取り組むことで、具体的に事業を実行しながら、機運を高めていきたいと考えています。

**学生や若い世代とのフィールドワークを通じて**

足利大学の学生をはじめとした若い世代に、ボランティア等で活動にいずれ参加してもらえるように取り組んでいきたいと考えています。関わるうちに足利を好きになって定住する人がでてきてくれたら嬉しいことですし、子育てもしやすい環境ができて幅広い年代で人が増えていければ最高のことだと思います。

#### 他の団体との交流

各団体にお手伝い出向し、スタッフとして経験をさせていただくことで見習う点や課題の部分などが明確になると思うのと、よい交流となりサポートし合える部分が見つけられるかと思いました。



図1 打合せの様子

書き手  
沼尻了俊

## NPO 法人 足利歴史まちづくりの会 沼尻了俊

### 足利の歴史文化を将来の世代に引き継ぐプロジェクト

#### 活動の内容とそのきっかけ

NPO 法人足利歴史まちづくりの会では、足利にまつわる歴史や文化、各地に伝わる伝説や風習などを調査・収集し、それを地域の皆さんと共有して伝承していくこと、また途絶えてしまったお祭りや行事を再興すること等を通じて、消え行く歴史文化を守り、振興を図るとともに足利への認識や愛着を高めていくことで、地域みんなで「歴史・文化のまち足利」のまちづくりに貢献しようと日々活動しています。令和4年2月に法人登記をした新しい団体で、最初の取り組みとして令和3年2月に発生した山林火災と両崖山の周辺に長尾氏によって祀られた七弁天について調査しています(図1-8)。

#### 足利の歴史文化の継承を目指して

##### ・足利の歴史文化

足利市は「歴史・文化のまち」と呼ばれるように、日本国内でも有数の歴史や文化の豊かな街であることが知られています。鎌倉・室町時代の足利氏の隆盛はもちろんのこと、縄文式土器が発掘され、13000基を超える古墳があり、奈良期から寺院が開かれるなど、足利氏以前の歴史も多くみ



図3 月谷巖島神社を調査



図4 山に分け入り、五十部磯弁天を調査



図5 本経寺長尾大権現



図6 長林寺 長尾家の「九曜巴紋」入りの屋根瓦



図2 今福辨財宮を調査

られます。とくに、神社や寺院は関東地方では最多であるとも言われ、歴史文化の厚みを表す一つの指標とも言えるでしょう。さて、歴史や文化というものは、一体何を指してそのように呼ぶのでしょうか？歴史というと学校の教科書で出て来た話で、普段の生活とは遠いもの、と思われるかもしれません。また文化というものも、例えば茶道や華道、和食や浮世絵というように、外国の方から見た日本の「文化」のイメージがあって、やはり普段の暮らしとは少し違うもの、と感じる方もいるかもしれません。ですが、私は意外と身近にあるものなのではないかと思っています。

例えば足利で暮らしていると、きつとどこかでお祭りに参加したことがあるのでは

ないでしょうか。いろんな地域からたくさんの方が参加するような大きなものから、地域の社寺で開かれる小さなものもあります。地域の皆で協力して準備をして、五穀豊穡や地域の安寧を祈る。そうしてまた日々の生活を送っていく。毎年開かれるこうしたお祭りは少なくとも生まれる前から、はたまた数百年以上前から続いているものも少なくないと思います。このように、日常を暮らす中でも知らず知らずのうちに実は長い歴史と繋がっていて、またそうした日々の営みとその時代時代の、その地域の文化を形作っていくのだと思います。さらに言えば、日々の暮らしから滲み出てくる「文化」が長い間に形となっていくと「歴史」と呼ばれるようになってくるのかもしれない。

・失われる歴史文化

しかしながら、高度経済成長に伴って生活様式が変化したり、また近年の少子高齢化や人口減少の流れの中で、これまで各地域で引き継がれて来た風習やお祭り、伝承といった歴史文化が途切れてしまう危機に瀕しています。今、80代、90代の方達がこうした文化を現役で暮らして来られた最後の世代で、今のうちに引き継いでおかなければこれほど豊かな足利の歴史文化が失わ



図7 足利長尾七弁天マップ(表)

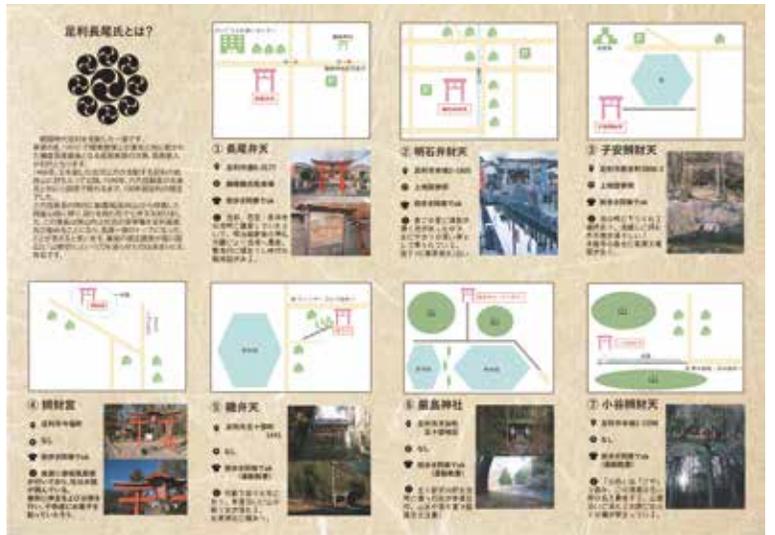


図8 足利長尾七弁天マップ(裏)

れ、途絶えてしまう可能性があります。まさに今、継承して行かなければ、永遠に失われてしまう歴史文化が、すぐそこにあるのです。

**消えゆく歴史文化を継承していくための努力が、日々の暮らしに彩をもたらす**

まだ令和4年の2月に出来たばかりのこのNPOの中心となるのは、市民の皆さんから昔話を聞き集め、古来の言い伝えやお祭り、風習などを広めたり、再興していく活動になります。対象となる地域は足利全域となるため、かなり広範囲に渡ります。一人一人の暮らしやその積み重ねが文化や歴史を作り上げていくため、これを集めていくためには多くの人手が必要になり、10人で開始したこのNPOだけでは到底足りません。足利の歴史文化をなるべく多く、次の世代に伝えていくため、この活動にご協力頂ける方を募っております。

一方で、実際に市民の方々から昔話を聞き、その地域について知っていくことは大変楽しいことでもあります。普段は何も知らずに通り過ぎていた神社やお寺、小さな石碑、山や川、橋や道にそれぞれ歴史や文



大岩山多聞院最勝寺において長尾七弁天紹介動画を撮影している様子

化があり、そうしたものと共に日々の暮らしがあったことを知ると、まだ生まれる前のことであってもあたかもその営みを経て来たかのように感じ、とても暖かい気持ちになります。また日々の暮らしでなんとなく目にしてきた街が急に彩りに満ちたようにも感じられ、こうした体験を多くの人も広めることが出来ればと思っています。

#### 幅広い連携を目指して

現在はまだ他団体の方々と連携をすることで出来ておりません。今後は、足利の歴史や文化、観光、教育、まちづくりなどを行っている色々な団体の方と協力して取り組みを進めていくことができればと思っています。

#### 今後の活動について

第一に、このNPOの活動を広く知って頂くことが課題となっております。足利の歴史文化を広く集めていくためには市民の皆様のご協力が必要不可欠です。そのため、まずは私たちができる範囲で活動をしていきながら、集めた歴史文化を広めていくことでこのNPOのことを知ってもらい、協

力して頂ける方を募っていこうと思っています。

そうして足利市全体をあげて地域の歴史を守り伝えていくことが、足利市の将来を担う大事な活動になると思っています。

#### 昔話を通して、歴史文化を引き継ぐ

足利に長く暮らしていらっしゃる方々には是非昔の足利がどのような様子だったのかをお教え頂ければと思っています。また、そうした様子を知らない方がいれば、是非ご近所の方々と昔話をして頂き、足利の歴史文化を引き継いで伝え続けて頂ければ幸いです。

各地域の昔話を当NPOに伝えて頂ければ、それを動画や冊子にして皆様に広めていくお手伝いをさせていただきます。

#### 他の活動団体へ

足利のまちのために活動されている皆様と一緒に連携をしたり、シンポジウムを開催したりして、ぜひ一緒に足利のにぎわいを取り戻していく活動していきましょう！

# はじまりの句読点

渡邊美樹

まず、今回の冊子のインタビューに答えていただいた方々、記事を投稿して頂いた方々におかれては、これまでの長年にわたる様々なご活動に対して心より敬意を表します。

タモリさんの長者番組「笑っていいとも！」で「世界に広げよう、ともだちのワ」というフレーズがありました。昭和世代として記憶に新しいものです。足利大学前理事長牛山先生のお声がけではじまったこの多世代交流プロジェクトは、まだ産み落とされたタマゴを温めているような状態だと思っっています。そして今回登場して頂いた方々から様々な分野の方をご紹介頂いて、「交流のワ」を広げていけたらと思っっています。発案当初からプロジェクトに加わったメンバーは、北村先生、福島先生、私、沼尻さん、大野先生とおおむね70代から30代がみごとにそろった多世代メンバーです。地元の視点、外からの視点、それぞれの世代からの視点を交えて、未来を担う子供たちにもご参加頂いて大きなワを創れたらと構想しています。今後ともよろしくお願致します。

令和4年4月21日

足利大学 教授 渡邊美樹

## 編集後記

本冊子は足利大学の共同研究「足利市における市民活動団体をつなぐプラットフォームの構築」における、地域貢献の取り組みの一つの成果です。

新型コロナウイルス感染症拡大がなかなか収束をみせず、2022年2月19日に開催する予定だった「足利のまちづくり多世代情報交換会」が延期されてしまいました。そこで、この情報交換会で語り合うはずだった内容を冊子という形で残すことにしました。

ご存知の通り、足利には市民によるさまざまな活動があります。今後は、この企画に参加してくださった方々から数珠つなぎのように関係を横に広げていって、さらに多くの活動を取り上げていきたいと考えています。そして、この冊子が足利でのさまざまな活動を紹介し、誰もがアクセスでき、それぞれがつなぎ合うことを容易にする地図のような役割を果たせたならば本望です。

(大野隆司)

## 「多世代交流による足利のまちづくり」企画・編集委員会

大野隆司

足利大学工学部准教授

北村 隆

元 足利大学附属高等学校長、現 株式会社トチセン特任研究員

福島二郎

足利大学非常勤講師

渡邊美樹

足利大学工学部教授

## 協力者（団体）

足利大学附属高等学校

足利清風高等学校

足利工業高等学校

木村寛

外丸実

清水弘一

富田和則

沼尻了俊

## 多世代交流による足利のまちづくり | 01

---

発行日

2022年5月1日

編著・制作・刊行

「多世代交流による足利のまちづくり」企画・編集委員会

編集

大野隆司 北村隆 福島二郎 渡邊美樹

印刷・製本

上武印刷株式会社

問合せ

足利大学

〒326-8558 栃木県足利市大前町268-1

TEL 0284-62-0605

無断転載禁止

©「多世代交流による足利のまちづくり」企画・編集委員会

歴史と文化

隊

足利のまちづくり

足利の文化・産業のミツムタムタムとして

里山の持続的利用に向けた実業高校の「新たな実証実験」

足利の歴史文化を将来の世代に引き継ぐプロジェクト